

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	齋藤洋典	所属	名古屋大学
研究集会等名称	東アジアの言語処理に関する研究会 第14回東アジアの言語の処理に関する国際会議 (The 14 th International Conference on Processing of East Asian Languages 2012)		
成果概要	<p>1) 参加人数 111名 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 48名 (うち認定心理士 5名) 非会員 63名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>内容： 東アジアの言語処理に関する研究会が企画立案し、実行した第14回東アジアの言語の処理に関する国際会議(The 14th International Conference on Processing of East Asian Languages 2012: ICPEAL2012)は、東アジアの言語の処理に関する研究発表と研究交流を主要目的とし、2012年10月26日から28日にわたり名古屋大学で開催された。本国際会議では10カ国の研究者が、アジアの言語を基軸とする研究発表を通して、言語処理に関する研究上の問題点を討議した。</p> <p>成果： ICPEAL 2012の発表は、2種類の招待講演、1種類の招待シンポジウム、42件の口頭発表、39件のポスター発表から構成された。本国際会議への参加者数(111名)を研究拠点(地域)別に示すと、日本(48名)、台湾(31)、香港(17)、大韓民国(8)、アメリカ合衆国(3)、カナダ、ドイツ、南アフリカ、英国(各1名)であった。</p> <p>田窪行則氏(京都大学)とHarald Baayen氏(Univ. of Tuebingen)による招待講演は、「異なる言語間での共通特性と、特定の言語での特異性が、なぜ複数の言語に内在するのか」という問いが、現在もなおその重要性を失っていないことを参加者に再認識させた。</p> <p>招待シンポジウムでは、H. C. Chen氏が中国語における言語処理特性の問題を読み処理の観点から、古山宣洋氏がコミュニケーション事象における、知覚と行為の問題を個人内と個人間の運動協調の観点から、そしてBruno Galantucci氏が社会的相互作用の問題を実験記号論の観点から論じた。</p> <p>将来計画： 東アジアの言語処理に関する研究会は、次期国際会議を2014年に大韓民国の高麗大学(Korea University, Seoul)で開催する計画を決定した。開催日程は、10月24(金)、25(土)、26(日)の3日間の予定である。</p>		